

2.6 台風の変動⁴⁸

台風の変動の特徴は以下のとおりである。

- 2022 年の台風の発生数は 25 個で、平年並だった。
- 台風の発生数に長期変化傾向は見られない。

2022 年の台風の発生数は、平年並の 25 個（平年値⁴⁹25.1 個）だった。1990 年代後半から 2010 年代初めにかけて発生数の少ない年が多かったものの、1951～2022 年の統計期間で台風の発生数には長期変化傾向は見られない（図 2.6-1）。2022 年の日本への台風の接近数⁵⁰は 11 個（平年値 11.7 個）で平年並で、上陸数⁵¹は 3 個（平年値 3.0 個）だった。発生数と同様に、接近数には長期変化傾向は見られない。上陸数は年あたり 2、3 個程度とサンプル数が少ないため、長期変化傾向を述べるのは難しい（図 2.6-1）。

2021 年 8 月に公表された IPCC 第 6 次評価報告書第 1 作業部会報告書 (IPCC,2021) において、世界の（全熱帯低気圧に占める）強い熱帯低気圧（カテゴリ 3～5⁵²）（1 分間の平均風速 50m/s 以上）の発生の割合は過去 40 年間で増加している可能性が高い（確信度が中程度）と報告されている。また、北西太平洋域の熱帯低気圧がその強度のピークに達する緯度が北に遷移している可能性が非常に高い（確信度が中程度）とも報告されている。

北西太平洋域における強度の大きい台風に関する長期変化傾向については、最新の IPCC 報告書でも確信度の高い評価までには至らなかった課題であり、引き続き、より長期かつ質の高い観測を継続し、それらを活用して長期変化傾向を監視していくことが必要である。

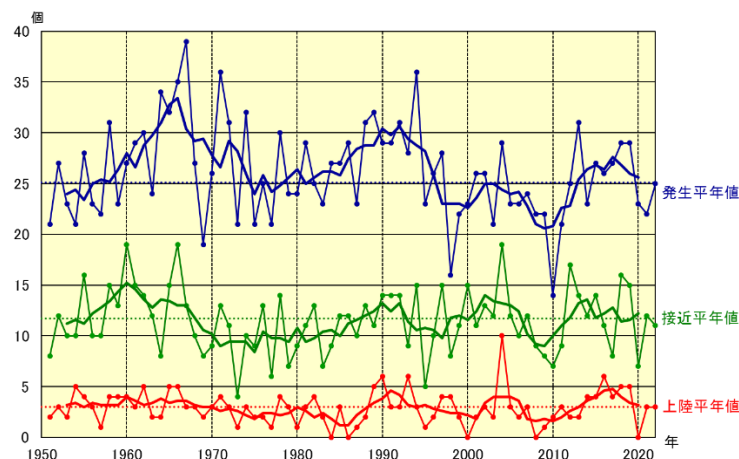


図 2.6-1 台風の発生数、日本への接近数・上陸数の経年変化（1951～2022 年）

青：発生数、緑：接近数、赤：上陸数。細線は各年値、太線は 5 年移動平均値、点線は平年値（1991～2020 年の 30 年平均値）を示す。

⁴⁸ 熱帯または亜熱帯地方で発生する低気圧を熱帯低気圧といい、そのうち北西太平洋または南シナ海に存在し、低気圧域内の最大風速（10 分間の平均風速）がおよそ 17m/s 以上のものを日本では「台風」と呼んでいる。また、台風の最大風速により、勢力を「強い」（33m/s 以上 44m/s 未満）、「非常に強い」（44m/s 以上 54m/s 未満）、「猛烈な」（54m/s 以上）と区分している。

気象庁ホームページでは、統計を開始した 1951 年以降に発生した台風に関する様々な統計資料を掲載している。<https://www.data.jma.go.jp/yoho/typhoon/statistics/index.html>（台風の統計資料）

⁴⁹ 平年値は 1991～2020 年の平均値。

⁵⁰ 「接近」は台風の中心が国内のいずれかの気象官署等から 300km 以内に入った場合を指す。

⁵¹ 「上陸」は台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指す。

⁵² 気象庁の分類は 10 分間の平均風速、ハリケーンのカテゴリは 1 分間の平均風速に基づく。カテゴリ 1 は 33～42m/s、カテゴリ 2 は 43～49m/s、カテゴリ 3 は 50～57m/s、カテゴリ 4 は 58～69m/s、カテゴリ 5 は 70m/s 以上。